

VeraSnap

「世界初」クレーム防護可能性分析

5つの独立調査による統合レポート

調査日: 2026年1月26日

調査手法: 5つの独立技術分析のクロスバリデーション

対象製品: VeraSnap (旧VeriCapture) — iOS Consumer カメラアプリ

エグゼクティブサマリー

本レポートは、5つの独立調査分析の結果を統合し、VeraSnapの「世界初」クレームを検証する。全5調査が一致した結論:

Claim B (生体認証Human Presence Binding + RFC 3161 TSA) が最も防護可能かつ推奨されるポジショニングである。

クレームレベル	コンセンサス評価	信頼度
Claim A (全7機能)	限定付きで防護可能	高 (5/5)
Claim B (生体認証+RFC 3161)	極めて防護可能 (推奨)	非常に高 (5/5)
Claim C (ハッシュ+タイムスタンプ)	困難 (先行技術あり)	高 (5/5)

主要発見

RFC 3161 TSA外部アンカーとcapture時生体認証 (Face ID/Touch ID) human presence bindingを組み合わせ、オフライン第三者検証を可能にするconsumer iOS appは、公開文書化された先行例が存在しない。

重要ギャップ分析

上位競合の分析により一貫したパターンが判明：RFC

3161

TSAタイムスタンプとcapture時生体認証bindingの両方を組み合わせたアプリは存在しない。

製品	RFC 3161	生体認証	iOS Consumer	状態
CertiPhoto	あり	なし	あり	生体認証欠如
Click Camera	なし(Blockchain)	あり(2024-06)	あり	RFC 3161欠如
Truepic	一部	なし	なし(B2B SDK)	Consumer非該当
ProofMode	オプション	なし	あり	未統合
VeraSnap	あり	あり	あり	完全

Claim B: 極めて防御可能（推奨）

全5調査が全会一致でClaim Bを主要ポジショニングとして推奨。主要差別化ポイント：

差別化ポイント	VeraSnapの優位性
法的基盤	RFC 3161（法廷証拠能力）vs. ブロックチェーン
Human Presence	Capture時Face ID vs. アプリログイン認証
オフライン検証	自己完結型TSAトークン vs. ネットワーク依存
プライバシー	ローカル処理 vs. クラウド/ブロックチェーン同期

推奨マーケティングステートメント

「VeraSnapは、Secure EnclaveとRFC 3161タイムスタンプを用い、検証されたhuman presenceをメディアキャプチャに暗号学的にバインドし、オフライン第三者検証を可能にする、世界初のconsumer iOSアプリです。」

戦略的メリット：

- ブロックチェーンベースの競合（Click、Capture Cam）との明確な差別化
- 非RFC 3161ソリューションに対する法的基盤の優位性
- タイムスタンプアプリの中でユニークなhuman presence検証
- サーバー依存ソリューションに対するオフライン検証能力

主要脅威分析

競合	脅威レベル	VeraSnapとの主要差
CertiPhoto (2016年～)	Claim Cに対して高	生体認証binding欠如
Click Camera (2024-06～)	中	Blockchain、RFC 3161なし
Truepic	中～高	B2B SDK特化、Consumer非該当
ProofMode	中	ツールキット、未統合

結論

5つの独立調査研究の包括的クロスバリデーションに基づき、VeraSnapの「世界初」クレームはClaim Bレベルで防御可能である。RFC 3161 TSA外部アンカーとcapture時生体認証human presence bindingを組み合わせた先行consumer iOS appは存在しない。

推奨: Claim

Bを主要ポジショニングとして採用。VeraSnapは、法的グレードのタイムスタンプ (RFC 3161) とhuman presence検証 (Face ID/Touch ID) をプライバシー保護ローカルアーキテクチャで組み合わせた、ユニークなポジションを占める。

本分析は2026年1月26日時点の公開情報に基づく。発見事項はクロスバリデーションされた最善努力の調査結果を示し、法的助言を構成しない。